尊光寺報

第136号
令和4年9月

徳島県阿波市市場町大野島字天神41
尊光寺

お念珠を持ちましょう

お彼岸を前にして、今回は正しい合掌（がっしょう）礼拝（らいはい）、お念珠のお作法を今一度点検してみましょう。

「礼拝」とは、つつしみ敬いお慕いする心を表す行為で、仏さまの前に座る際や、お勤めの際、お焼香の際に行います。「礼拝」を、仏教では「らいはい」と読み、キリスト教では「れいはい」と読みますので、お間違えの無いように。

正しい礼拝は、お念珠を持って行います。お念珠はもともと、数を数える道具が起源であるとする説があり、仏さまを礼拝するときに、仏さまのお名前（お念仏）の回数を数える道具として使用されたようですが、浄土真宗ではお念仏の数にこだわることはありませんので、礼拝の道具として用います。よって、お念珠の珠を繰ったり、摺り合わせたりはいたしません。

合掌するとき以外は、お念珠を左手に持ち、親指と人差し指の間にかけたり、手首にかけて持つと良いでしょう。

①

②

合掌するときは、合掌した手にお念珠を通し、親指で軽く押さえます。ひじを軽く脇にそえ、合わせた手を胸につけ、手の角度を45度にします。そして仏さまの姿を見ながら「ナモアミダブツ」とお念仏を称えます。

礼拝は、合掌したまま体をゆっくりと45度前に傾けて礼をし、ゆっくりと元の姿勢に戻し、手をほどきます。

ポイントは、動作を一呼吸置きながらゆっくり行うと美しい所作となります。また、幾人かで行う時は動作をそろえて行うとよいでしょう。

このたびのお彼岸は、美しい合掌礼拝の作法で、お敬いの心を丁寧に表してみましょう。

合掌（がっしょう）

礼拝（らいはい）

お念珠の素材と形

お念珠の珠の素材は、木材、石材、ガラスやプラスチックなど様々、色も透明から赤や黄、青など様々です。珠を通している紐も色々なものがあります。房の形も様々ですが、主には紐房と呼ばれるシンプルなもの（上のイラスト①）と、房の付いた可愛らしいもの（上のイラスト②）があります。また珠数が多く二輪にして使う二連念珠と、一連の単念珠がありますが、一般的には単念珠が扱いやすいです。

新しく念珠を求めたい方は、仏具店で自分の好みに合ったものを探してみるのも楽しいでしょう。お店の方に「浄土真宗本願寺派です」と伝えると、お念珠の形式を教えてくれることでしょう。

糸は切れるものです

「お念珠が切れると縁起が悪い」などと心配される方がいらっしゃいますが、全く以て迷信ですのでご安心ください。

念珠の珠と糸との摩擦によって糸が切れるのですから、切れるのが当たり前です。むしろよく使っている有り難い証拠ですね。ただ、ポケットに入れたまま座ったり、強く握ったりすると、糸に余計な力が加わり切れやすくなることもありますから、なるべく丁寧に扱うことも長持ちのポイントです。

念珠の糸が切れましたら、散らばった珠を集めて仏具店か念珠店へ持って行き、お修理をお願いしましょう。良いお店であれば、切れにくい糸を紹介してくれたり、糸の色を選べたりします。手先の器用な人であれば、自分で念珠を直すのも良いでしょう。せっかくですから、マイ念珠を長く使いたいものです。

正信偈講座㉛

釈迦如来楞伽山
龍樹大士出於世
宣説大乗無上法

（赤い経本一六ページ）

為衆告命南天竺
悉能摧破有無見
証歓喜地生安楽

【訓読】釈迦如来、楞伽山にして、衆のために告命したまはく、南天竺に龍樹大士世に出でて、ことごとくよく有無の見を摧破せん。大乗無上の法を宣説し、歓喜地を証して安楽に生ぜんと。

【現代語訳】お釈迦さまは『楞伽経（りょうがきょう）』というお経を説かれる中で、「将来、南インドに龍樹（りゅうじゅ）という者が現れ、物事を有や無とこだわって見る誤った見解を打ち破り、この上なく尊い大乗（だいじょう）の教えを説き、歓喜地（かんぎじ）という菩薩の位にいたり、阿弥陀仏の浄土へ往生するだろう」と仰せになった。

今回から、インドより日本へ、お釈迦様から私たちまで、お念仏の教えを伝えてくださった七人の高僧方が登場します。

まずは南インドで活躍された龍樹さまです。龍樹という名前は中国での翻訳語で、インドではナーガールジュナと呼ばれていたようです。大変お徳の高い方ですので、龍樹菩薩さまと尊称されています。

龍樹菩薩が活躍されたのは、お釈迦様の時代から六～七百年ほど後の時代、紀元後一五〇～二五〇年頃と考えられています。当時のインドはインド内の交易はもちろん、シルクロードを介してヨーロッパや中国との交易も盛んに行われ、様々な文化の交流もあったようで、仏教においても、仏像が作られ始めたり、新たに大乗仏教とよばれる思想が興ってきた直後の時期にあたります。

お釈迦さまが開かれた仏教ですが、時代が下るにつれ、だんだんと学問的かつ専門的になってしまいました。その専門的になった仏教から、お釈迦さまの教えに立ち返ろうとする運動が大乗仏教と言えるでしょう。大乗仏教では、自利利他という教え、自らのさとりは他の人の救済（さとり）と離れたものではないことを強調します。そして、一人だけが救われればよいとする小さな教え（小乗）ではなく、多くの方が救われていく教えを大きな乗物にたとえて大乗とよんだのです。現在日本の仏教はほぼほぼこの大乗仏教の流れをくんだ宗派です。浄土真宗を開いた親鸞聖人も「浄土真宗は大乗の至極なり」と言われ、南無阿弥陀仏の教えこそ、多くの方が救われる最高の大乗仏教であると説いていかれます。

さて、伝記に依りますと、龍樹菩薩は、インド宗教の一つであるバラモン教の司祭の家系に生まれます。幼い頃より頭脳明晰で、あらゆる学問に精通しますが、調子にのり、友人達と悪事をはたらきます。身につけた隠遁の術を使い、仲間と夜な夜な城に忍び込みます。隠遁の術とは透明人間になる術。お城

の女性達にいたずらをはたらくのです。城内では次々と被害が起こるのに犯人の姿が見えません。しばらく経ったある夜、王は一計を案じ、宮殿の床に細かな砂をまかせます。隠遁の術で身は見えませんが、歩いたところには足跡が残り、細かな砂が動きます。臣下は砂の跡、動くところを目がけて剣を振り、仲間達は次々と殺されてゆくのです。龍樹は機転を利かし、王の側に身を隠しじっとします。王の側には剣は届きません。龍樹一人だけなんとか命が助かったようです。

この出来事をきっかけに龍樹は、学問にすぐれ快楽を求めてもかえって苦しみを招くことをさとり、仏教に帰依し出家を決意したと伝えられています。衝撃的なエピソードですが、自らの身の上に起こったことをきっかけに自らの命を見つめ、そのはかなさと苦悩の中に生きていることに気づいていったのでしょう。まさに仏教が苦からの解脱を目指すものであると言うことを示しているエピソードなのです。

次回は出家した龍樹菩薩についてお話を続けます。

庫裏改築の経過報告

庫裏の改築工事は、外壁工事が終わり、現在は主に内装設備、外構の工事が行われている。庫裏本体は十月末完成を目指し順調に進んでいる。完成まであと少し、今しばらくお待ちください。

法要・行事のご案内

コロナ対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。

◎秋の彼岸会永代経法要

西に沈む夕陽の先に、先立った方が往かれた極楽浄土を思い、残された我々も同じお念仏に出会い同じ浄土へと参る人生をただいま歩んでいることを味わわせて頂きましょう。どなた様もお参りください。

【9月23日（金）】午後1時 法要・法話

【9月24日（土）】午後1時 法要・法話

※24日は仏教婦人会による老人ホームお接待を予定しておりましたが、感染症対策のため食事接待を取り止め、法話後のお茶とします。午後1時より、どなた様もお気軽にお参りください。

【法話講師】高尾隆徳 師（香川県）

◎御正忌報恩講法要

宗祖親鸞聖人を偲び、阿弥陀さまのお慈悲に出会わせていただく、浄土真宗門徒にとって最も大切なお勤めです。

【12月17日（土）】

午後1時より法要・法話

午後6時より逮夜法要・法話・御伝鈔拝読解説

【12月18日（日）】

午前10時より門徒総永代経法要・法話

お昼頃　お斎（食事）接待

午後1時より御満座法要・法話・御伝鈔拝読解説

【法話講師】季平博昭 師（広島県尾道市）

【お当番】市場東組（興崎・箸供養・西ノ岡・上ノ段・奈良坂尾開）です。よろしくお願い致します。

◎除夜の鐘

【12月31日（土）】夜11時40分頃より

どなたでも鐘をつけます。

新たな年の始まりをお念仏とともに迎えましょう。

◎来年の京都参り（予告）

来年の京都参りは5月17日に本山の法要にお参りします。

1泊コースは前泊で東京築地本願寺参拝を計画中です。

日帰り・1泊ともに次回の寺報でご案内します。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■仏教講座『御文章（ごぶんしょう）』■

「聖人一流の～」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

●毎月第3金曜日　10時半～12時　月額 3300円

■親鸞聖人と『歎異抄（たんにしょう）』■

「悪人こそが救われる!?」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

●毎月第2月曜日　13時半～15時　月額 3300円

【教室・申込先】 徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市寺島本町西1-5アミコ東館7階

TEL 088-611-3355

徳島新聞カルチャーセンターは、徳島本校（川内）と徳島駅前校（アミコ九階）がひとつになり、徳島駅前アミコビル七階に移動し、新しく徳島本校としてスタートしています。

令和４年 年忌表

令和4年の法事と亡くなった年

1周忌	令和 3(2021)年	
3回忌	令和 2(2020)年	
7回忌	平成28(2016)年	
13回忌	平成22(2010)年	
17回忌	平成18(2006)年	
25回忌	平成10(1998)年	
33回忌	平成 2(1990)年	
50回忌	昭和48(1973)年	
61回忌	昭和37(1962)年	
100回忌	大正12(1923)年	
150回忌	明治 6(1873)年	
200回忌	文政 6(1823)年	
250回忌	安永 2(1773)年	
300回忌	享保 8(1723)年	

過去帳やお位牌をご覧ください。

秋の彼岸会永代経法要

九月二十三日（金曜・秋分の日）二十四日（土曜）

両日とも午後一時より　お勤めと法話

※　二十四日は、仏教婦人会による特別養護老人ホームお接待を予定しておりましたが、新型コロナウイルス対策のためにお接待は行わないことに致します。恒例の会食を行わず、法要後にお茶とお茶菓子を振る舞うことと致します。どなたさまも体調に配慮されつつ、お参りください。

法話講師　本願寺派布教使・香川県妙覚寺ご住職

高尾隆徳　師

先生は、二〇一七年秋のお彼岸以来のお越しです。
やさしく丁寧に仏さまのお慈悲を伝えて下さいます。
コロナ対策のためにマスクをしてお参りください。本堂には消毒液を置いてますのでご利用ください。本堂はほどよく換気されております。

尊光寺　阿波市市場町大野島字天神四一

2022（令和4）年　尊光寺行事予定（下半期）

9月23日（金）　午後 1時　秋の彼岸会永代経法要
9月24日（土）　午後 1時　秋の彼岸会永代経法要

11月20日（日）　午前 9時　おみがき（仏具磨き）
12月 1日（木）　午前 9時　お内仏報恩講法要
12月11日（日）　午前 8時半　お餅つき
12月12日（月）　午前 9時　お荘厳（おかざり）

報恩講法要に向けた準備日程です。お昼過ぎ終了の目標です。
皆さまのお力添えを宜しくお願い致します。
お手伝い衆・仏教婦人会会員を募集しております。

12月17日（土）　午後 1時　報恩講法要・法話
午後 5時　お斎（食事）
午後 6時　報恩講大逮夜・御伝鈔拝読・法話

12月18日（日）　午前10時　総永代経法要・法話
午前11時半　お斎（食事）接待
午後 1時　報恩講御満座・御伝鈔拝読・法話

※本年のお当番は市場東組です。宜しくお願い致します。
市場東組は、興崎北中南、箸供養、西ノ岡、上ノ段南北、奈良坂尾開です。

12月31日　午後11時40分　除夜会（除夜の鐘）
1月 1日　午前 0時　修正会

どの行事も自由にご参加いただけます。
みなさまのお参りをお待ちしております。